

さんべえほんフェスタ！！

ようこそ とよたかずひこワールドへ ～絵本作家・とよたかずひこさんとあそぼう～

1 趣 旨

- 絵本や紙芝居の読み聞かせのすばらしさを知り、自ら進んで読書活動に向かう子供を育てる。
- ワークショップを通し、物語の世界に入り込み、親子間・家族間の交流を図る。
- 交流の家での生活を通して、家族の絆を深めることや時間を守るなどの基本的な生活習慣を確立するきっかけづくりを行う。

2 事業の概要

- (1) 期 日 令和2年11月7日(土)～8日(日)
- (2) 場 所 国立三瓶青少年交流の家
- (3) 講 師 とよた かずひこ 氏
- (4) 対 象 ①幼児～小学校低学年とその家族  
②図書館関係者や読み聞かせグループ等
- (5) 参加者 15家族51名(申込23家族76名)
- (6) 日程・内容

	13:30	14:00	14:40	15:30	15:40	16:30	17:30	19:00	21:00	22:30
11/7 (土)	入所・受付	オリエンテーション はじめの会	I 絵本の世界① ～絵本や紙芝居を楽しもう～ 絵本紹介・読み語り	II 絵本の世界② ～絵本ができるまで～ お話し	休 憩	夕食・入浴・休憩	III 選択活動 ①サヒメル(天体観察) ②読み語り ③絵本を読む ④カブラ ⑤所内でゆっくり など	就寝準備	就 寝	
11/8 (日)	6:30 起床	7:00 清掃	7:30 朝食・休憩	9:00 退所点検	IV 絵本の世界③ ～絵本の中に入り込もう～ ワークショップ	11:30 おわりの会	11:50 解 散			

3 事業の内容

(1) プログラムデザインと企画のポイント

参加者が、とよた氏の魅力を十分に感じながら、絵本の世界に入り込むことができるようにプログラムを考えた。とよた氏の絵本や紙芝居の読み語りの間に、作品ができるまでのストーリーやエピソード等を交えることで、子供たちも大人も夢中になって楽しめる時間となった。

2日目「絵本の世界③」では、とよた氏の「でんしゃにのって」「コトコトでんしゃ」の絵本の世界を参加者全員で創り出した。会場内の線路、鉄橋、トンネル、踏切等に、参加者が段ボールで制作した電車を走らせることで、絵本の舞台に入り込むことができるようにした。

また、参加者がゆったり過ごせるように、「絵本コーナー」の設置や、夜の選択活動で様々な体験ができるようにした。選択活動の1つ「読み語り」は、施設隣町の図書館スタッフに依頼した。「はっばのがみ 西沢杏子(文)」の読み語りから、タラヨウの葉に手紙を書く体験をするなど、絵本と自然がつながる時となった。

(2) 運営のポイント

とよた氏との打ち合わせで、「絵本の世界①②」は、ひとまとまりで90分とした。くつろぎながら話を聞けるようにすることや、自由に出入り可能とすることで、参加者がリラックスして参加できるようにした。

ゆとりのできた時間には、とよた氏のサイン会を設定した。とよた氏は、会話を楽しみながら、丁寧に絵本にサインをされるので、参加者にとって、貴重なふれあいの機会となった。

夜の選択活動の間に、スタッフで会場に線路、鉄橋、トンネル、踏切等の準備をした。「絵本の世界②」では、段ボールを使って参加者が電車を作った。会場の周りに、制作に必要な道具を揃え、参加者が必要とする物を、いつでも使えるようにした。基本的な作り方を伝えた後は、参加者が想像力を

働かせて、思い思いの電車を作り出した。ボランティアが車掌になって、切符を配るなどの工夫を加えることで、参加者は、できあがった電車を走らせながら、絵本の世界を満喫することができた。

新型コロナウイルス感染症への対応として、参加人数を50名程度に制限して実施した。とよた氏のお話会では、飛沫防止シートを活用する等、本所のガイドラインに沿って運営した。

#### 4 参加者へのアンケート結果

##### (1) アンケートの集計 (%)

	満足	やや満足	やや不満	不満
事業全体	73	27	0	0
事業のプログラム	93	7	0	0
事業の運営	67	33	0	0
職員の対応	80	20	0	0

##### (2) 参加者の声

- ・とよたかずひこ先生のお人柄が素晴らしく、親子で感動しました。絵本に似顔絵付きのサインを描いてもらったのはよい記念になりました。
- ・楽しかった。夜の読み聞かせで、葉っぱにお手紙を書いたのが楽しかったです。
- ・とよたかずひこさんへ 紙芝居おもしろかったです。また聞きたいです。これからも、絵本を楽しみにしています。
- ・三瓶青少年交流の家に初めてきました。プログラムの内容をチラシで拝見した時は、結構、内容沢山なので子供が疲れるかな…と思ったのですが、実際は楽しさが勝って、疲れが出るどころか力が湧き出しているようでした。
- ・とよたさんご本人に読み聞かせをしていただけて、とっても贅沢な時間を過ごせました。息子もめいっぱい楽しんでいました。最初に「寝てもいいよ」と言っていただいたおかげでのびのびできたのだと思います。「でんしゃののって」が生まれたエピソードや、ももんちゃんやバルボンさんの設定など、おもしろいお話もたくさん聞かせていただけて、それぞれの作品の奥深さを感じました。
- ・最近、寝る前の読み聞かせも適当になってきましたが、一緒に作品を味わっていけそうな気がしました。サインもイラストまで描いていただいて感動です。本当に素敵な経験をさせていただき、ありがとうございました。
- ・子供からです。「本物のとよたかずひこさんに会えてとてもうれしかったです。いろんな絵本を読んでもらえておもしろかったし、うれしかったです。絵本コーナーにたくさんとよたさんの絵本があったので、こんなにたくさんのお話を描いておられて、すごいなと思いました。」絵本コーナーでずらりと絵本が並べてあり、本好きな我が子にはとても幸せな空間だったようです。10冊以上は読んでいました。下の子は、お話は退屈していましたが…。工作大好きなので、2日目はとても喜んで参加できました。初めてでしたが、参加できてとても良かったです。ありがとうございました。

#### 5 成果と課題

##### 《成果》

- ・アンケートの参加者の声にあるように、1泊2日を通して、とよた氏と絵本を主役に活動プログラムを組むことで、参加者の絵本への興味を深めることができた。子供たちが絵本を好きになるとともに、大人も絵本の良さを改めて実感し、子育てと絵本をつなげる機会となった。
- ・事前の準備を入念に行うとともに、幼児でも負担なく制作できるようにワークショップの作業内容を単純にしたりすることで、事業の運営をスムーズに行うことができた。また、参加者も見通しをもって、作品を制作することができた。

##### 《課題》

- ・ワークショップを含めて、1泊2日で事業をすることの達成感はある一方、事前の準備は、時間がかかり負担はある。1日目の夜もスタッフが遅くまで準備を進めることになった。ワークショップにこだわらないプログラムや、絵本のプログラムを他の事業に組み込むことで、絵本の楽しさを幅広く普及できるようにする工夫が必要である。



(担当：事業推進室長 田邊 治生)